

OECD 生徒の学習到達度調査

Programme for International Student Assessment

～2009 年調査国際結果の要約～



PISA調査の概要

- 参加国が共同して国際的に開発し、実施している15歳児を対象とする学習到達度調査。
- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について調査。
- 2009年に65か国・地域（OECD加盟国34、非加盟国・地域31）、約47万人の生徒を対象に調査を実施した。なお、2000年調査には32か国（OECD加盟国28、非加盟国4）が、2003年調査には41か国・地域（OECD加盟国30、非加盟国・地域11）が、2006年調査には57か国・地域（OECD加盟国30、非加盟国・地域27）が参加。
- 国際的な調査の実施・調整は、オーストラリア教育研究所（ACER）を中心とするコアAとオランダ教育測定研究所（Cito）を中心とするコアBの2つの国際コンソーシアムが行っている。前者は主にテスト問題の開発、調査の実施・調整、データの収集、結果の分析等を、後者は主に質問紙調査の開発、データの収集、結果の分析等を行っている。日本では、コアAのメンバーでもある国立教育政策研究所を中心に、文部科学省及び国立大学法人東京工業大学教育工学開発センターと連携・協力してPISA調査を実施。

【調査サイクル】

- PISA調査は2000年に第1回目の本調査が実施され、以後3年ごとのサイクルで調査が継続されている。2009年本調査は第4サイクルにあたる。
- 各調査サイクルでは調査時間の3分の2を費やす中心分野を重点的に調べ、他の2つの分野については概括的な状況を調べる。2000年調査では読解力、2003年調査では数学的リテラシー、2006年調査では科学的リテラシー、さらに2009年調査では再び読解力が中心分野となった。なお、2003年調査ではこれら3分野に加え、問題解決能力についても評価したが、2006年調査及び2009年調査では実施していない。

【内容】

- 2009年調査では読解力を中心分野として、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野を調査。
- PISA調査は、義務教育修了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみるものであり、特定の学校カリキュラムをどれだけ習得しているかをみるものではない。
- 思考プロセスの習得、概念の理解、及び各分野の様々な状況でそれらを生かす力を重視。
- 読解力の定義が、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（下線：新たに加えられた部分）となった。読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から、「読みへの取り組み」(engaging with written texts)という要素が加えられた。つまり、読むことに対してモチベーション（動機付け）があり、読書に対する興味・関心があり、読書を楽しみと感じており、読む内容を精査したり、読書の社会的な側面に関わったり、読書を多面的にまた頻繁に行っているなどの情緒的、行動的特性を指す。

【 調査対象 】

- 15 歳児に関する国際定義に従って、わが国では、調査対象母集団を「高等学校本科の全日制学科、定時制学科、中等教育学校後期課程、高等専門学校」の1年生、約117万人と定義し、層化二段抽出法によって、調査を実施する学校(学科)を決定し、各学校(学科)から無作為に調査対象生徒を選定した。調査には、全国の185校(学科)、約6,000人の生徒が参加。

【 調査方法 】

- 2009年調査では、筆記型調査として各生徒はテスト問題に2時間取り組んだ。なお、国際オプションとして、わが国を含む19か国・地域でコンピュータ使用型読解力調査(ERA: Electronic Reading Assessment)を実施。
- PISA調査は、多肢選択式及び自由記述式等の問題から構成されている。設問は、実生活で遭遇するような状況を説明する文章等に基づいて解答するものとなっている。
- 2009年調査では総計6.5時間分に相当する問題を使用し、問題の組み合わせによって13種類(冊)のブックレット(テスト問題群)が準備された。各生徒はそのうちの1種類のブックレットに、2時間かけて解答。
- 生徒自身及び学習環境等に関する情報を収集するための生徒質問紙(生徒対象)、学校に関する情報を収集するための学校質問紙(校長対象)を実施。それぞれ回答時間は約30分程度。

【 結果の分析尺度 】

- OECD加盟国の生徒の平均得点が500点、約3分の2の生徒が400点から600点の間に入るように換算(OECD加盟国の平均が500点、標準偏差が100点)。ただし、平均得点については、2000年調査以降トルコ、スロバキア、チリなどの国がOECDに加盟したこともあり、必ずしも500点になっていない。
- PISA調査では、調査分野ごとに、調査問題の難易度をもとに得点をスケール化したものを習熟度(proficiency)あるいは習熟度レベル(proficiency level)と呼んでいる。2009年調査の評価の枠組みの検討にあたっては、読解力の習熟度レベルについて、高いレベルと低いレベルをより詳細に測定、分析することが必要ではないかとの議論がなされ、読解力の習熟度レベルの見直しが行われた。これにより、2000年調査以降使われていた6段階(レベル5、レベル4、レベル3、レベル2、レベル1、レベル1未満)の習熟度レベルが、8段階(レベル6、レベル5、レベル4、レベル3、レベル2、レベル1a、レベル1b、レベル1b未満)となった。なお、数学的リテラシー及び科学的リテラシーは、それぞれこれまでの7段階(レベル6～レベル1未満)で変更はない。

2009年調査の結果の概要

1. 読解力の結果（本文第2章）

読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」である。

（1）習熟度レベル別結果（本文第2.2節）

表1～4は、総合読解力及び「情報へのアクセス・取り出し」「統合・解釈」「熟考・評価」の3つの側面について、得点によって生徒の習熟度を高い方から低い方へ、レベル6からレベル1b未満の8段階に分け、各レベルの生徒の割合を示したものである。

なお、以下表5及び8を除く表では、2006年調査の日本語版報告書で取り上げた国・地域、及び2009年調査に初めて参加し、成績の良かったシンガポールと上海を含む17か国・地域の結果を示した。また、すべての表において非OECD加盟国・地域は網掛で示した。国・地域名は略称を用いている。

- 総合読解力（表1参照）について、レベル5以上の生徒の割合が最も多いのは上海であり、19%である。次いでニュージーランドの16%、シンガポールの16%、フィンランドの15%で、日本は13%で5番目である。OECD平均の8%を上回る国は19か国である（本文第2.2.2節参照）。
- レベル1a以下の生徒の割合が最も少ないのは上海であり、4%である。日本の割合は14%であり、OECD平均の19%より少なく、少ない方から8番目である（本文第2.2.2節参照）。
- 習熟度レベル2以上の生徒の割合が最も多いのは上海で、96%である。以下、韓国、フィンランド、香港、カナダ、シンガポール、エストニアと続き、日本は86%で8番目に多い（本文第2.2.2節参照）。
- 男女別にみると、レベル5以上の生徒の割合が最も多いのは上海で男子13%、女子26%である。OECD平均は男子5%、女子10%であり、日本は男子10%、女子17%である。レベル1a以下の生徒の割合についてみると、OECD平均は男子25%、女子13%であり、この割合が最も少ないのは上海で男子7%、女子2%である（本文第2.2.2節参照）。
- 読解力の3つの側面について（表2～4参照）、レベル5以上の生徒の割合が最も多いのは「情報へのアクセス・取り出し」「統合・解釈」「熟考・評価」のいずれにおいても上海で、それぞれ22%、21%、21%である。日本はそれぞれ18%、14%、16%で、上から2番目、6番目、4番目となっている（本文第2.2.2節参照）。

表1 総合読解力における習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル 1b 未満 | レベル 1b | レベル 1a | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|----------|--------------|-----------|-----------|------|------|------|------|------|
| 日本 | 1.3 | 3.4 | 8.9 | 18.0 | 28.0 | 27.0 | 11.5 | 1.9 |
| オーストラリア | 1.0 | 3.3 | 10.0 | 20.4 | 28.5 | 24.1 | 10.7 | 2.1 |
| カナダ | 0.4 | 2.0 | 7.9 | 20.2 | 30.0 | 26.8 | 11.0 | 1.8 |
| フィンランド | 0.2 | 1.5 | 6.4 | 16.7 | 30.1 | 30.6 | 12.9 | 1.6 |
| フランス | 2.3 | 5.6 | 11.8 | 21.1 | 27.2 | 22.4 | 8.5 | 1.1 |
| ドイツ | 0.8 | 4.4 | 13.3 | 22.2 | 28.8 | 22.8 | 7.0 | 0.6 |
| アイルランド | 1.5 | 3.9 | 11.8 | 23.3 | 30.6 | 21.9 | 6.3 | 0.7 |
| イタリア | 1.4 | 5.2 | 14.4 | 24.0 | 28.9 | 20.2 | 5.4 | 0.4 |
| 韓国 | 0.2 | 0.9 | 4.7 | 15.4 | 33.0 | 32.9 | 11.9 | 1.0 |
| ニュージーランド | 0.9 | 3.2 | 10.2 | 19.3 | 25.8 | 24.8 | 12.9 | 2.9 |
| イギリス | 1.0 | 4.1 | 13.4 | 24.9 | 28.8 | 19.8 | 7.0 | 1.0 |
| アメリカ | 0.6 | 4.0 | 13.1 | 24.4 | 27.6 | 20.6 | 8.4 | 1.5 |
| オランダ | 0.1 | 1.8 | 12.5 | 24.7 | 27.6 | 23.5 | 9.1 | 0.7 |
| OECD平均 | 1.1 | 4.6 | 13.1 | 24.0 | 28.9 | 20.7 | 6.8 | 0.8 |
| 香港 | 0.2 | 1.5 | 6.6 | 16.1 | 31.4 | 31.8 | 11.2 | 1.2 |
| 台湾 | 0.7 | 3.5 | 11.4 | 24.6 | 33.5 | 21.0 | 4.8 | 0.4 |
| シンガポール | 0.4 | 2.7 | 9.3 | 18.5 | 27.6 | 25.7 | 13.1 | 2.6 |
| 上海 | 0.1 | 0.6 | 3.4 | 13.3 | 28.5 | 34.7 | 17.0 | 2.4 |

表2 「情報へのアクセス・取り出し」における習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル 1b 未満 | レベル 1b | レベル 1a | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|----------|--------------|-----------|-----------|------|------|------|------|------|
| 日本 | 1.9 | 3.2 | 8.0 | 16.2 | 25.4 | 27.0 | 14.1 | 4.2 |
| オーストラリア | 1.3 | 3.5 | 9.7 | 19.8 | 29.0 | 24.5 | 10.2 | 2.0 |
| カナダ | 0.9 | 2.7 | 9.0 | 20.7 | 29.8 | 24.9 | 10.1 | 1.8 |
| フィンランド | 0.8 | 2.5 | 7.8 | 17.2 | 27.0 | 27.4 | 14.2 | 3.1 |
| フランス | 3.0 | 5.5 | 12.5 | 21.8 | 26.3 | 20.9 | 8.5 | 1.4 |
| ドイツ | 1.5 | 5.4 | 12.8 | 20.6 | 26.1 | 22.7 | 9.4 | 1.5 |
| アイルランド | 2.2 | 3.7 | 10.6 | 22.6 | 30.2 | 22.6 | 7.2 | 0.9 |
| イタリア | 2.8 | 6.3 | 13.9 | 22.9 | 27.6 | 19.7 | 6.1 | 0.7 |
| 韓国 | 0.3 | 1.2 | 5.5 | 15.9 | 30.1 | 30.3 | 13.9 | 2.7 |
| ニュージーランド | 1.3 | 3.4 | 10.0 | 18.4 | 26.0 | 24.6 | 13.3 | 3.0 |
| イギリス | 1.7 | 4.8 | 13.6 | 23.4 | 28.3 | 19.8 | 7.1 | 1.2 |
| アメリカ | 1.2 | 4.9 | 13.8 | 24.8 | 27.5 | 19.2 | 7.2 | 1.3 |
| オランダ | 0.2 | 2.1 | 10.0 | 21.4 | 27.4 | 26.7 | 10.8 | 1.4 |
| OECD平均 | 2.0 | 5.0 | 12.6 | 22.4 | 27.5 | 20.9 | 8.1 | 1.4 |
| 香港 | 0.8 | 2.3 | 7.4 | 17.5 | 28.3 | 29.5 | 12.2 | 2.0 |
| 台湾 | 2.0 | 5.0 | 12.4 | 22.2 | 27.3 | 21.2 | 8.3 | 1.6 |
| シンガポール | 0.9 | 3.3 | 9.0 | 17.7 | 25.8 | 26.8 | 13.5 | 3.0 |
| 上海 | 0.5 | 1.5 | 5.7 | 14.8 | 26.1 | 29.5 | 17.3 | 4.6 |

表3 「統合・解釈」における習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル 1b 未満 | レベル 1b | レベル 1a | レベル 2 | レベル 3 | レベル 4 | レベル 5 | レベル 6 |
|----------|--------------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本 | 1.2 | 3.4 | 9.3 | 18.9 | 27.1 | 26.2 | 11.3 | 2.6 |
| オーストラリア | 1.0 | 3.7 | 10.9 | 20.7 | 27.6 | 22.9 | 10.5 | 2.7 |
| カナダ | 0.4 | 2.3 | 9.1 | 20.7 | 28.8 | 25.0 | 11.4 | 2.3 |
| フィンランド | 0.2 | 1.3 | 6.3 | 16.8 | 29.7 | 30.0 | 13.6 | 2.2 |
| フランス | 2.6 | 5.8 | 12.3 | 20.4 | 25.7 | 21.6 | 9.9 | 1.8 |
| ドイツ | 0.7 | 4.2 | 12.8 | 22.4 | 27.9 | 22.7 | 8.3 | 0.9 |
| アイルランド | 1.5 | 4.1 | 12.6 | 24.0 | 29.3 | 20.9 | 6.9 | 0.8 |
| イタリア | 1.1 | 4.6 | 13.9 | 24.4 | 29.2 | 20.4 | 5.9 | 0.6 |
| 韓国 | 0.2 | 0.9 | 4.8 | 15.7 | 31.7 | 32.4 | 12.9 | 1.4 |
| ニュージーランド | 1.0 | 3.6 | 10.9 | 20.3 | 25.2 | 23.3 | 12.5 | 3.1 |
| イギリス | 1.0 | 4.5 | 14.6 | 25.0 | 28.1 | 18.5 | 7.1 | 1.2 |
| アメリカ | 0.7 | 4.7 | 14.5 | 24.9 | 26.0 | 19.1 | 8.2 | 1.8 |
| オランダ | 0.1 | 2.7 | 14.1 | 24.4 | 26.2 | 21.7 | 9.6 | 1.3 |
| OECD平均 | 1.1 | 4.6 | 13.6 | 24.2 | 28.1 | 20.2 | 7.2 | 1.1 |
| 香港 | 0.4 | 2.0 | 7.0 | 17.8 | 30.2 | 29.3 | 11.5 | 1.8 |
| 台湾 | 0.4 | 3.2 | 11.6 | 24.5 | 32.7 | 21.3 | 5.9 | 0.5 |
| シンガポール | 0.6 | 3.0 | 9.9 | 19.2 | 26.2 | 24.8 | 12.9 | 3.5 |
| 上海 | 0.0 | 0.5 | 3.4 | 13.3 | 28.3 | 33.2 | 18.0 | 3.1 |

表4 「熟考・評価」における習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル 1b 未満 | レベル 1b | レベル 1a | レベル 2 | レベル 3 | レベル 4 | レベル 5 | レベル 6 |
|----------|--------------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本 | 1.9 | 3.9 | 9.1 | 17.8 | 25.9 | 25.0 | 12.7 | 3.6 |
| オーストラリア | 1.0 | 3.2 | 9.3 | 18.9 | 26.8 | 25.0 | 12.6 | 3.2 |
| カナダ | 0.3 | 1.8 | 6.5 | 17.6 | 29.4 | 28.5 | 13.2 | 2.7 |
| フィンランド | 0.4 | 1.3 | 6.3 | 16.9 | 30.5 | 30.0 | 12.8 | 1.8 |
| フランス | 2.4 | 5.8 | 12.0 | 21.0 | 26.7 | 21.8 | 9.1 | 1.1 |
| ドイツ | 1.5 | 5.5 | 12.6 | 22.6 | 29.3 | 22.0 | 6.0 | 0.5 |
| アイルランド | 1.3 | 4.2 | 11.5 | 21.5 | 29.2 | 22.8 | 8.5 | 1.1 |
| イタリア | 2.6 | 6.3 | 14.5 | 22.8 | 27.1 | 19.7 | 6.2 | 0.7 |
| 韓国 | 0.3 | 1.1 | 5.3 | 15.5 | 30.1 | 31.7 | 14.0 | 2.0 |
| ニュージーランド | 0.9 | 3.4 | 9.5 | 17.5 | 24.0 | 25.0 | 14.9 | 4.7 |
| イギリス | 0.9 | 3.8 | 12.2 | 23.5 | 28.2 | 20.9 | 8.8 | 1.8 |
| アメリカ | 0.5 | 3.3 | 11.1 | 22.2 | 27.4 | 23.1 | 10.2 | 2.2 |
| オランダ | 0.1 | 1.6 | 11.2 | 24.8 | 29.1 | 23.7 | 8.8 | 0.7 |
| OECD平均 | 1.6 | 4.9 | 12.8 | 23.0 | 28.2 | 20.8 | 7.6 | 1.2 |
| 香港 | 0.2 | 1.6 | 6.2 | 14.7 | 29.9 | 32.0 | 13.5 | 1.9 |
| 台湾 | 0.9 | 3.8 | 11.7 | 24.8 | 33.2 | 20.7 | 4.5 | 0.4 |
| シンガポール | 0.6 | 2.8 | 9.0 | 18.0 | 27.3 | 25.3 | 13.6 | 3.5 |
| 上海 | 0.2 | 0.6 | 4.2 | 13.2 | 27.6 | 32.9 | 17.9 | 3.4 |

- 読解力の3つの側面について（表2～4参照）、レベル1a以下の生徒の割合が最も少ないのは、それぞれ韓国7%、上海4%、上海5%である。日本はそれぞれ13%、14%、15%で、いずれもOECD平均より少ない（本文第2.2.2節参照）。
- これら3つの側面について男女別にみると、いずれにおいても、すべての国で上位の習熟度レベルに属している生徒の割合は女子の方が多く、下位の習熟度レベルに属している生徒の割合は女子の方が少ない（本文第2.2.2節参照）。

（2）読解力得点の国際比較（本文第2.3節）

表5は、各国・地域の読解力の平均得点を、総合読解力及び3つの読解力の側面別に示したものである。

- 総合読解力の平均得点は、上海、韓国、フィンランド、香港、シンガポール、カナダ、ニュージーランド、日本、オーストラリア、オランダの順に高く、日本の得点は520点であり、8番目に高い。また、順位の範囲で見ると、日本はOECD加盟34か国の中では3位から6位の間、参加65か国全体では5位から9位の間位置している（本文第2.3.1節参照）。
- 「情報へのアクセス・取り出し」の平均得点は、上海、韓国、フィンランド、日本、香港、シンガポール、ニュージーランド、オランダ、カナダ、ベルギーの順に高く、日本の得点は530点であり4番目に高い。順位の範囲で見ると、日本はOECD加盟国中では2位から4位の間、参加国全体では3位から7位の間位置している（本文第2.3.2節参照）。
- 「統合・解釈」の平均得点は、上海、韓国、フィンランド、香港、シンガポール、カナダ、日本、ニュージーランド、オーストラリア、オランダの順に高く、日本の得点は520点であり7番目に高い。順位の範囲で見ると、日本はOECD加盟国中では3位から6位の間、参加国全体では5位から9位の間位置している（本文第2.3.2節参照）。
- 「熟考・評価」の平均得点は、上海、韓国、香港、フィンランド、カナダ、ニュージーランド、シンガポール、オーストラリア、日本、アメリカの順に高く、日本の得点は521点であり9番目に高い。順位の範囲で見ると、日本はOECD加盟国中では5位から7位の間、参加国全体では8位から10位の間位置している（本文第2.3.2節参照）。

表5 読解力平均得点の国際比較

| | 総合読解力 | 得点 | 「情報へのアクセス・取り出し」 | 得点 | 「統合・解釈」 | 得点 | 「熟考・評価」 | 得点 |
|---|-----------|-----|-----------------|-----|-----------|-----|-----------|-----|
| ① | 上海 | 556 | 上海 | 549 | 上海 | 558 | 上海 | 557 |
| ② | 韓国 | 539 | 韓国 | 542 | 韓国 | 541 | 韓国 | 542 |
| ③ | フィンランド | 536 | フィンランド | 532 | フィンランド | 538 | 香港 | 540 |
| ④ | 香港 | 533 | 日本 | 530 | 香港 | 530 | フィンランド | 536 |
| ⑤ | シンガポール | 526 | 香港 | 530 | シンガポール | 525 | カナダ | 535 |
| ⑥ | カナダ | 524 | シンガポール | 526 | カナダ | 522 | ニュージーランド | 531 |
| ⑦ | ニュージーランド | 521 | ニュージーランド | 521 | 日本 | 520 | シンガポール | 529 |
| ⑧ | 日本 | 520 | オランダ | 519 | ニュージーランド | 517 | オーストラリア | 523 |
| ⑨ | オーストラリア | 515 | カナダ | 517 | オーストラリア | 513 | 日本 | 521 |
| ⑩ | オランダ | 508 | ベルギー | 513 | オランダ | 504 | アメリカ | 512 |
| ⑪ | ベルギー | 506 | オーストラリア | 513 | ベルギー | 504 | オランダ | 510 |
| ⑫ | ノルウェー | 503 | ノルウェー | 512 | ポーランド | 503 | ベルギー | 505 |
| ⑬ | エストニア | 501 | リヒテンシュタイン | 508 | アイスランド | 503 | ノルウェー | 505 |
| ⑭ | スイス | 501 | アイスランド | 507 | ノルウェー | 502 | イギリス | 503 |
| ⑮ | ポーランド | 500 | スイス | 505 | スイス | 502 | エストニア | 503 |
| ⑯ | アイスランド | 500 | スウェーデン | 505 | ドイツ | 501 | アイルランド | 502 |
| ⑰ | アメリカ | 500 | エストニア | 503 | エストニア | 500 | スウェーデン | 502 |
| ⑱ | リヒテンシュタイン | 499 | デンマーク | 502 | 台湾 | 499 | ポーランド | 498 |
| ⑲ | スウェーデン | 497 | ハンガリー | 501 | リヒテンシュタイン | 498 | リヒテンシュタイン | 498 |
| ⑳ | ドイツ | 497 | ドイツ | 501 | フランス | 497 | スイス | 497 |
| ㉑ | アイルランド | 496 | ポーランド | 500 | ハンガリー | 496 | ポルトガル | 496 |
| ㉒ | フランス | 496 | アイルランド | 498 | アメリカ | 495 | アイスランド | 496 |
| ㉓ | 台湾 | 495 | 台湾 | 496 | スウェーデン | 494 | フランス | 495 |
| ㉔ | デンマーク | 495 | マカオ | 493 | アイルランド | 494 | デンマーク | 493 |
| ㉕ | イギリス | 494 | アメリカ | 492 | デンマーク | 492 | 台湾 | 493 |
| ㉖ | ハンガリー | 494 | フランス | 492 | イギリス | 491 | ラトビア | 492 |
| ㉗ | ポルトガル | 489 | クロアチア | 492 | イタリア | 490 | ドイツ | 491 |
| ㉘ | マカオ | 487 | イギリス | 491 | スロベニア | 489 | ギリシャ | 489 |
| ㉙ | イタリア | 486 | スロバキア | 491 | マカオ | 488 | ハンガリー | 489 |
| ㉚ | ラトビア | 484 | スロベニア | 489 | チェコ | 488 | スペイン | 483 |
| ㉛ | スロベニア | 483 | ポルトガル | 488 | ポルトガル | 487 | イスラエル | 483 |
| ㉜ | ギリシャ | 483 | イタリア | 482 | ラトビア | 484 | イタリア | 482 |
| ㉝ | スペイン | 481 | スペイン | 480 | ギリシャ | 484 | マカオ | 481 |
| ㉞ | チェコ | 478 | チェコ | 479 | スロバキア | 481 | トルコ | 473 |
| ㉟ | スロバキア | 477 | オーストリア | 477 | スペイン | 481 | クロアチア | 471 |
| ㊱ | クロアチア | 476 | リトアニア | 476 | ルクセンブルグ | 475 | ルクセンブルグ | 471 |
| ㊲ | イスラエル | 474 | ラトビア | 476 | イスラエル | 473 | スロベニア | 470 |
| ㊳ | ルクセンブルグ | 472 | ルクセンブルグ | 471 | クロアチア | 472 | スロバキア | 466 |
| ㊴ | オーストリア | 470 | ロシア | 469 | オーストリア | 471 | ドバイ | 466 |
| ㊵ | リトアニア | 468 | ギリシャ | 468 | リトアニア | 469 | リトアニア | 463 |
| ㊶ | トルコ | 464 | トルコ | 467 | ロシア | 467 | オーストリア | 463 |
| ㊷ | ドバイ | 459 | イスラエル | 463 | トルコ | 459 | チェコ | 462 |

| | | | | | | | | |
|---|------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|-----|
| ㉔ | ロシア | 459 | ドバイ | 458 | ドバイ | 457 | チリ | 452 |
| ㉕ | チリ | 449 | セルビア | 449 | チリ | 452 | ロシア | 441 |
| ㉖ | セルビア | 442 | チリ | 444 | セルビア | 445 | ウルグアイ | 436 |
| ㉗ | ブルガリア | 429 | メキシコ | 433 | ブルガリア | 436 | メキシコ | 432 |
| ㉘ | ウルグアイ | 426 | タイ | 431 | ルーマニア | 425 | セルビア | 430 |
| ㉙ | メキシコ | 425 | ブルガリア | 430 | ウルグアイ | 423 | チュニジア | 427 |
| ㉚ | ルーマニア | 424 | ウルグアイ | 424 | モンテネグロ | 420 | ルーマニア | 426 |
| ㉛ | タイ | 421 | ルーマニア | 423 | トリニダード・トバコ | 419 | ブラジル | 424 |
| ㉜ | トリニダード・トバコ | 416 | トリニダード・トバコ | 413 | メキシコ | 418 | コロンビア | 422 |
| ㉝ | コロンビア | 413 | モンテネグロ | 408 | タイ | 416 | タイ | 420 |
| ㉞ | ブラジル | 412 | ブラジル | 407 | コロンビア | 411 | ブルガリア | 417 |
| ㉟ | モンテネグロ | 408 | コロンビア | 404 | ヨルダン | 410 | トリニダード・トバコ | 413 |
| ㊱ | ヨルダン | 405 | インドネシア | 399 | ブラジル | 406 | インドネシア | 409 |
| ㊲ | チュニジア | 404 | カザフスタン | 397 | アルゼンチン | 398 | ヨルダン | 407 |
| ㊳ | インドネシア | 402 | アルゼンチン | 394 | インドネシア | 397 | アルゼンチン | 402 |
| ㊴ | アルゼンチン | 398 | ヨルダン | 394 | カザフスタン | 397 | モンテネグロ | 383 |
| ㊵ | カザフスタン | 390 | チュニジア | 393 | チュニジア | 393 | パナマ | 377 |
| ㊶ | アルバニア | 385 | アルバニア | 380 | アルバニア | 393 | アルバニア | 376 |
| ㊷ | カタール | 372 | ペルー | 364 | カタール | 379 | カタール | 376 |
| ㊸ | パナマ | 371 | パナマ | 363 | アゼルバイジャン | 373 | カザフスタン | 373 |
| ㊹ | ペルー | 370 | アゼルバイジャン | 361 | パナマ | 372 | ペルー | 368 |
| ㊺ | アゼルバイジャン | 362 | カタール | 354 | ペルー | 371 | アゼルバイジャン | 335 |
| ㊻ | キルギス | 314 | キルギス | 299 | キルギス | 327 | キルギス | 300 |
| | OECD 平均 | 493 | OECD 平均 | 495 | OECD 平均 | 493 | OECD 平均 | 494 |

(注) 網掛けは非 OECD 加盟国・地域を示す。

(3) 読解力得点の国内分布 (本文第 2.3 節)

- 総合読解力の平均得点の国内分布で、その国の上位 5% に位置する生徒の得点が最も高いのは上海であり、679 点である。日本の得点は 667 点で、上海、ニュージーランド、シンガポール、オーストラリアに次いで 5 番目に高い (本文第 2.3.3 節参照)。
- 「情報へのアクセス・取り出し」において上位 5% に位置する生徒の得点が最も高いのは上海であり、695 点である。日本の得点は 691 点で、上海に次いで 2 番目に高い (本文第 2.3.3 節参照)。
- 「統合・解釈」において上位 5% に位置する生徒の得点が最も高いのは上海であり、684 点である。日本の得点は 672 点で、上海、シンガポール、ニュージーランド、フィンランド、オーストラリアに次いで 6 番目に高い (本文第 2.3.3 節参照)。
- 「熟考・評価」において上位 5% に位置する生徒の得点が最も高いのはニュージーランドであり、696 点である。日本の得点は 686 点で、ニュージーランド、上海に次いで 3 番目に高い (本文第 2.3.3 節参照)。

(4) 読解力得点の男女差 (本文第 2.3 節)

- 総合読解力及び3つの側面について、65か国すべてにおいて、女子の得点が男子の得点よりも統計的に有意に高い。総合読解力において男女差の最も大きいのはアルバニアで女子が男子より62点高く、男女差の最も小さいのはコロンビアで女子が男子より9点高い。日本は男子501点に対し女子が540点で、女子が男子より39点高いが、これはOECD平均と同じである。17か国で見ると、最も男女差が大きいのはフィンランドで、男子508点に対し女子が563点で、女子が男子より55点高い(本文第2.3.4節参照)。

(5) 2000年調査結果との比較 (本文第 2.3 節)

- 2000年と2009年の読解力の平均得点の差について、2009年調査の得点が2000年調査の得点より高く、その得点差が統計的に有意であるのは13か国であり、2000年調査の得点が2009年調査の得点より高く、その得点差が統計的に有意であるのは4か国である。日本は2000年の平均得点が522点、2009年の平均得点が520点で、その差は2点であるが統計的な有意差はない(本文第2.3.5節参照)。

(6) 読解力問題の正答率 (本文第 2.4 節)

- 分析の対象となった読解力問題101題の平均正答率は、日本が64%、OECD平均が59%である。「情報へのアクセス・取り出し」については日本が74%、OECD平均が70%、「統合・解釈」については日本が62%、OECD平均が57%、「熟考・評価」については日本が59%、OECD平均が54%である(本文第2.4.1節参照)。
- 男女別の平均正答率は、日本の男子が61%、女子が67%であり、OECD平均は男子が56%、女子が63%である。日本もOECD平均も女子が男子よりも平均正答率が高い(本文第2.4.1節参照)。
- 読解力の平均無答率は、日本が9%、OECD平均が8%で、同程度である。無答率は多肢選択形式や複合的多肢選択形式の問題では低いが、自由記述形式の問題では高くなる傾向がある(本文第2.4.1節参照)。
- 2000年調査と2009年調査に共通して出題された読解力問題37題の正答率をみると、2000年調査の平均正答率の方が3ポイント高い。OECD平均も2000年調査の平均正答率の方が2ポイント高い。2000年調査よりも5ポイント以上、正答率が変化した問題は日本が16題、OECD平均が7題あり、そのうち2009年調査が2000年調査を上回った問題は日本が4題、下回った問題は日本が12題、OECD平均が7題である(本文第2.4.1節参照)。

(7) 生徒の背景と到達度 (本文第 2.5 節)

2009年調査では、生徒質問紙の中で「趣味としての読書」「読書活動」「読む本の種類・頻度」「オンライン上での読みの活動」「就学前教育機関での教育経験」についても尋ねた。

- 「趣味で読書をすることはない」と回答した生徒の割合について、17か国中最も多いのはオランダで、次いで日本、アメリカ、アイルランド、ドイツの順であった。その割合が最も少なかったのは上海で、次いで台湾、香港、シンガポールの順であった。(「趣味で読書をすることはない」と回答した生徒以外の)「楽しみで本を読む」生徒につい

て、2009年調査の割合が2000年調査の割合に比べて統計的に有意に多いのは、日本、カナダ、ブルガリア、香港、ギリシャ、タイの6か国で、日本の場合、2000年調査に比べ2009年調査の方が男子で約9ポイント、女子で約13ポイント増え、平均で約10ポイント増加した（本文第2.5.1節参照）。

- 読書活動について様々な観点から尋ねたところ、日本の場合、「読書は、大好きな趣味の一つだ」「本の内容について人と話すのが好きだ」「本をプレゼントされると、うれしい」の各項目について「どちらかといえばあてはまる」「とてもよくあてはまる」と回答した生徒の割合が、それぞれ2000年調査に比べて統計的に有意に高い。また、「本を最後まで読み終えるのは困難だ」「読書は時間のムダだ」「読書をするのは、必要な情報を得るためだけだ」「じっと座って本を読むなど、数分しかできない」の各項目について「どちらかといえばあてはまる」「とてもよくあてはまる」と回答した生徒の割合については、日本はそれぞれ2000年調査に比べて統計的に有意に低い（本文第2.5.2節参照）。
- 読む本の種類・頻度については、日本の場合、フィクション（小説、物語など）、ノンフィクション（伝記、ルポルタージュなど）を「月に数回」「週に数回」読むと回答した生徒の割合が、2000年調査よりも統計的に有意に高く、雑誌、コミック（マンガ）、新聞を「月に数回」「週に数回」読むと回答した生徒の割合が、2000年調査よりも統計的に有意に低い。また、読む本の種類と頻度別にみた総合読解力の平均得点については、日本の場合、雑誌について「読まない」グループの方が「読む」グループよりも得点が高く、それ以外の読み物については、「読む」グループの方が「読まない」グループよりも得点が高かった（本文第2.5.3節参照）。
- コンピュータや携帯電話などオンライン上での読みの活動の種類・頻度については、日本はEメールを読む生徒は多いが、ネット上でのチャットや討論会・フォーラムに参加する生徒は少ない。また、これについて各国の生徒を指標値によって上位から下位まで4群に分け、それぞれの総合読解力の平均得点を見てみると、中上位25%、最上位25%に属する生徒は最下位25%、中下位25%に属する生徒より総合読解力得点が高い傾向がみられた（本文第2.5.4節参照）。
- 幼稚園や保育所での教育歴については、日本の場合、ほとんどの生徒が1年より長く就学前教育を受けていた。また、就学前教育機関における生徒の教育歴別に総合読解力の平均得点を見てみると、日本の場合、1年より長く就学前教育を受けた生徒の総合読解力得点が最も高い。OECD平均では、就学前教育を受けた期間の長い順に得点が高かった（本文第2.5.5節参照）。

2. 数学的リテラシー及び科学的リテラシーの結果

(1) 数学的リテラシーの結果（本文第3章）

数学的リテラシーとは、「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在及び将来の個人の生活、職業生活、友人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠に基づき判断を行い、数学に携わる能力」である。

①習熟度レベル別結果（本文第3.2節）

表6は数学的リテラシーについて、得点によって生徒の習熟度を高い方から低い方へ、2003年調査及び2006年調査と同様にレベル6からレベル1未満の7段階に分け、各レベルの生徒の割合を示したものである。

- レベル6の生徒の割合が最も多いのは上海で、27%である。その次はシンガポールの16%であり、以下、台湾、香港、韓国、スイスと続き、日本は6%で7番目である（本文第3.2.2節参照）。
- レベル1未満の生徒の割合が最も少ないのは上海で、1%である。以下、フィンランド、韓国、香港と続き、日本は4%で少ない方から11番目である（本文第3.2.2節参照）。

表6 数学的リテラシーにおける習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル1未満 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| 日本 | 4.0 | 8.5 | 17.4 | 25.7 | 23.5 | 14.7 | 6.2 |
| オーストラリア | 5.1 | 10.8 | 20.3 | 25.8 | 21.7 | 11.9 | 4.5 |
| カナダ | 3.1 | 8.3 | 18.8 | 26.5 | 25.0 | 13.9 | 4.4 |
| フィンランド | 1.7 | 6.1 | 15.6 | 27.1 | 27.8 | 16.7 | 4.9 |
| フランス | 9.5 | 13.1 | 19.9 | 23.8 | 20.1 | 10.4 | 3.3 |
| ドイツ | 6.4 | 12.2 | 18.8 | 23.1 | 21.7 | 13.2 | 4.6 |
| アイルランド | 7.3 | 13.6 | 24.5 | 28.6 | 19.4 | 5.8 | 0.9 |
| イタリア | 9.1 | 15.9 | 24.2 | 24.6 | 17.3 | 7.4 | 1.6 |
| 韓国 | 1.9 | 6.2 | 15.6 | 24.4 | 26.3 | 17.7 | 7.8 |
| ニュージーランド | 5.3 | 10.2 | 19.1 | 24.4 | 22.2 | 13.6 | 5.3 |
| イギリス | 6.2 | 14.0 | 24.9 | 27.2 | 17.9 | 8.1 | 1.8 |
| アメリカ | 8.1 | 15.3 | 24.4 | 25.2 | 17.1 | 8.0 | 1.9 |
| オランダ | 2.8 | 10.6 | 19.0 | 23.9 | 23.9 | 15.4 | 4.4 |
| OECD平均 | 8.0 | 14.0 | 22.0 | 24.3 | 18.9 | 9.6 | 3.1 |
| 香港 | 2.6 | 6.2 | 13.2 | 21.9 | 25.4 | 19.9 | 10.8 |
| 台湾 | 4.2 | 8.6 | 15.5 | 20.9 | 22.2 | 17.2 | 11.3 |
| シンガポール | 3.0 | 6.8 | 13.1 | 18.7 | 22.8 | 20.0 | 15.6 |
| 上海 | 1.4 | 3.4 | 8.7 | 15.2 | 20.8 | 23.8 | 26.6 |

②数学的リテラシー得点の結果（本文第3.3節）

- 表8のとおり、日本の数学的リテラシーの平均得点は529点で、上海、シンガポール、香港、韓国、台湾、フィンランド、リヒテンシュタイン、スイスに次いで9番目である。統計的に考えられる日本の平均得点の順位は、OECD加盟国中では3位から6位の間、参加国全体では8位から12位の間である（本文第3.3.1節参照）。

③数学的リテラシー得点の国内分布及び男女差（本文第 3.3 節）

- 各国内の数学的リテラシー得点の分布で、その国の上位 5%に位置する生徒の得点が最も高いのは上海で、757 点である。その次はシンガポールの 725 点であり、以下、台湾、香港、スイス、韓国と続き、日本は 677 点で 7 番目である（本文第 3.3.2 節参照）。
- 数学的リテラシーの男女の平均得点の差が最も大きいのはコロンビアで、男子の方が女子より 32 点高い。統計的に有意に男子の方が女子より高い国は 35 か国、女子の方が男子より高い国は 5 か国ある。日本は男子 534 点に対し女子が 524 点だが、統計的な有意差はない（本文第 3.3.3 節参照）。

④数学的リテラシー得点の経年変化（本文第 3.4 節）

- 2009 年調査と数学的リテラシーが中心分野であった 2003 年調査の平均得点を比較すると、日本は 2003 年調査より 5 点低くなっているが、統計的な有意差はない。また、2009 年調査の平均得点が OECD 平均を上回った国のうちで、2003 年調査より統計的に有意に高くなっているのはドイツだけで、10 点高くなっている。日本より 2009 年調査の平均得点が高い、香港、韓国、フィンランド、リヒテンシュタイン、スイスは、いずれも 2003 年調査と 2009 年調査の平均得点の間に統計的な有意差がない（本文第 3.4.1 節参照）。

⑤数学的リテラシー問題の正答率の経年変化（本文第 3.4 節）

- 2009 年調査並びに 2006 年、2003 年調査に共通に出題された数学的リテラシー問題 35 題の日本の平均正答率は、それぞれ 54%、52%、54%であり、2006 年と比べると 2 ポイント上がり、2003 年と比べると変化していない。OECD 平均はそれぞれ 47%、47%、48%で、ほとんど変化していない。日本において、2003 年調査よりも正答率が 5 ポイント以上上回った問題は 3 題で、これらの問題は、2006 年調査と比べても正答率が 5 ポイント以上上回っている。また、2003 年調査よりも正答率が 5 ポイント以上下回った問題は 3 題あるが、2006 年調査よりも正答率が 5 ポイント以上下回った問題はない（本文第 3.4.3 節参照）。

（2）科学的リテラシーの結果（本文第 4 章）

科学的リテラシーは、個々人の次の能力に注目する。

- ・ 疑問を認識し、新しい知識を獲得し、科学的な事象を説明し、科学が関連する諸問題について証拠に基づいた結論を導き出すための科学的知識とその活用。
- ・ 科学の特徴的な諸側面を人間の知識と探究の一形態として理解すること。
- ・ 科学とテクノロジーが我々の物質的、知的、文化的環境をいかに形作っているかを認識すること。
- ・ 思慮深い一市民として、科学的な考えを持ち、科学が関連する諸問題に、自ら進んで関わること。

①習熟度レベル別結果（本文第 4.2 節）

表 7 は科学的リテラシーについて、得点によって生徒の習熟度を高い方から低い方へ、2006 年調査と同様にレベル 6 からレベル 1 未満の 7 段階に分け、各レベルの生徒の割合を示したものである。

- レベル6の生徒の割合が最も多いのはシンガポールであり、5%である。その次は上海とニュージーランドの4%であり、以下、フィンランド、オーストラリアの3%が続き、日本は3%で6番目である。OECD平均を上回る国は17か国である。また、レベル1未満の生徒の割合が最も少ないのは上海であり、0.4%である。日本の割合は3%であり、OECD平均の5%より少ない（本文第4.2.2節参照）。
- 習熟度レベル2以上の生徒の割合が最も多いのは上海で、97%である。以下、フィンランド、韓国、香港、エストニア、カナダ、マカオと続く。日本は89%で8番目に多い。一方、習熟度レベル2以上の生徒の割合が50%未満の国が13か国あり、最も少ないのはキルギスの18%である。（本文第4.2.2節参照）。

表7 科学的リテラシー習熟度レベル別の生徒の割合（数字はパーセント）

| | レベル1未満 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| 日本 | 3.2 | 7.5 | 16.3 | 26.6 | 29.5 | 14.4 | 2.6 |
| オーストラリア | 3.4 | 9.2 | 20.0 | 28.4 | 24.5 | 11.5 | 3.1 |
| カナダ | 2.0 | 7.5 | 20.9 | 31.2 | 26.2 | 10.5 | 1.6 |
| フィンランド | 1.1 | 4.9 | 15.3 | 28.8 | 31.2 | 15.4 | 3.3 |
| フランス | 7.1 | 12.2 | 22.1 | 28.8 | 21.7 | 7.3 | 0.8 |
| ドイツ | 4.1 | 10.7 | 20.1 | 27.3 | 25.0 | 10.9 | 1.9 |
| アイルランド | 4.4 | 10.7 | 23.3 | 29.9 | 22.9 | 7.5 | 1.2 |
| イタリア | 6.1 | 14.5 | 25.5 | 29.5 | 18.6 | 5.3 | 0.5 |
| 韓国 | 1.1 | 5.2 | 18.5 | 33.1 | 30.4 | 10.5 | 1.1 |
| ニュージーランド | 4.0 | 9.4 | 18.1 | 25.8 | 25.1 | 14.0 | 3.6 |
| イギリス | 3.8 | 11.2 | 22.7 | 28.8 | 22.2 | 9.5 | 1.9 |
| アメリカ | 4.2 | 13.9 | 25.0 | 27.5 | 20.1 | 7.9 | 1.3 |
| オランダ | 2.6 | 10.6 | 21.8 | 26.9 | 25.3 | 11.2 | 1.5 |
| OECD平均 | 5.0 | 13.0 | 24.4 | 28.6 | 20.6 | 7.4 | 1.1 |
| 香港 | 1.4 | 5.2 | 15.1 | 29.4 | 32.7 | 14.2 | 2.0 |
| 台湾 | 2.2 | 8.9 | 21.1 | 33.3 | 25.8 | 8.0 | 0.8 |
| シンガポール | 2.8 | 8.7 | 17.5 | 25.4 | 25.7 | 15.3 | 4.6 |
| 上海 | 0.4 | 2.8 | 10.5 | 26.0 | 36.1 | 20.4 | 3.9 |

②科学的リテラシー得点の結果（本文第4.3節）

- 表8のとおり、日本の科学的リテラシーの平均得点は539点で、上海、フィンランド、香港、シンガポールに次いで5番目である。統計的に考えられる順位の範囲は、OECD加盟国中では2位から3位の間、参加国全体では4位から6位の間である（本文第4.3.1節参照）。

③科学的リテラシー得点の国内分布及び男女差（本文第4.3節）

- 各国内の科学的リテラシー得点の分布で、その国の上位5%に位置する生徒の得点が最も高いのはシンガポールであり、704点である。以下、上海、ニュージーランド、フィンランド、オーストラリアと続き、日本は686点で6番目に高い（本文第4.3.2節参照）。
- 科学的リテラシーの男女差の最も大きいのはヨルダンで、女子が男子より35点高い。ヨルダンを含む32か国は統計的にも有意差があり、11か国で男子が女子より高く、女子が男子より高い国は21か国である。日本は女子が男子より12点高いが、統計的な有意差はない（本文第4.3.3節参照）。

④科学的リテラシー問題の正答率（本文第 4.3 節）

- 分析の対象となった科学的リテラシー問題 53 題の平均正答率は、日本は 62%であり、OECD 平均の 54%を 8 ポイント上回っている（本文第 4.3.4 節参照）。
- 科学的な能力別に平均正答率を求めると、「科学的な疑問を認識する」領域では日本は 62%、OECD 平均は 55%、「現象を科学的に説明する」領域では日本は 61%、OECD 平均は 53%、「科学的な証拠を用いる」領域では日本は 63%、OECD 平均は 54%である。日本は科学的な能力のすべての領域で OECD 平均正答率を上回っている（本文第 4.3.4 節参照）。
- 平均無答率は、日本も OECD 平均もともに 6%である。無答率は選択肢形式や複合選択肢形式の問題では低いが、求答形式や論述形式の問題では高くなる傾向がある（本文第 4.3.4 節参照）。

⑤科学的リテラシー得点の経年変化（本文第 4.4 節）

- 2009 年調査と科学的リテラシーが中心分野であった 2006 年調査の平均得点を比較すると、日本は 2006 年調査より 8 点高くなっているが、統計的な有意差はない。2006 年調査よりも得点が有意に高い国は 11 か国であり、統計的に有意に低い国は 5 か国である。なお、OECD 平均は 2006 年調査より 3 点、高くなっている（本文第 4.4.1 節参照）。
- 2006 年と 2009 年の 2 回の調査に共通に出題された科学的リテラシー問題 53 題の日本の正答率の平均値は、2006 年調査が 60%で、2009 年調査が 62%である。OECD 平均は 2006 年調査で 53%、2009 年調査で 54%となっている。日本において 2006 年調査よりも 5 ポイント以上正答率が変化した問題は 16 題あり、そのうち 2009 年調査の方が正答率が高い問題は 15 題、2006 年調査の方が正答率が高かった問題は 1 題であった（本文第 4.4.3 節参照）。

表 8 数学的リテラシー及び科学的リテラシーの平均得点の国際比較

| | 数学的リテラシー | 得点 | 科学的リテラシー | 得点 |
|---|-----------|-----|-----------|-----|
| ① | 上海 | 600 | 上海 | 575 |
| ② | シンガポール | 562 | フィンランド | 554 |
| ③ | 香港 | 555 | 香港 | 549 |
| ④ | 韓国 | 546 | シンガポール | 542 |
| ⑤ | 台湾 | 543 | 日本 | 539 |
| ⑥ | フィンランド | 541 | 韓国 | 538 |
| ⑦ | リヒテンシュタイン | 536 | ニュージーランド | 532 |
| ⑧ | スイス | 534 | カナダ | 529 |
| ⑨ | 日本 | 529 | エストニア | 528 |
| ⑩ | カナダ | 527 | オーストラリア | 527 |
| ⑪ | オランダ | 526 | オランダ | 522 |
| ⑫ | マカオ | 525 | 台湾 | 520 |
| ⑬ | ニュージーランド | 519 | ドイツ | 520 |
| ⑭ | ベルギー | 515 | リヒテンシュタイン | 520 |
| ⑮ | オーストラリア | 514 | スイス | 517 |
| ⑯ | ドイツ | 513 | イギリス | 514 |
| ⑰ | エストニア | 512 | スロベニア | 512 |
| ⑱ | アイスランド | 507 | マカオ | 511 |
| ⑲ | デンマーク | 503 | ポーランド | 508 |
| ⑳ | スロベニア | 501 | アイルランド | 508 |
| ㉑ | ノルウェー | 498 | ベルギー | 507 |
| ㉒ | フランス | 497 | ハンガリー | 503 |
| ㉓ | スロバキア | 497 | アメリカ | 502 |
| ㉔ | オーストリア | 496 | チェコ | 500 |
| ㉕ | ポーランド | 495 | ノルウェー | 500 |
| ㉖ | スウェーデン | 494 | デンマーク | 499 |
| ㉗ | チェコ | 493 | フランス | 498 |
| ㉘ | イギリス | 492 | アイスランド | 496 |
| ㉙ | ハンガリー | 490 | スウェーデン | 495 |
| ㉚ | ルクセンブルグ | 489 | オーストリア | 494 |
| ㉛ | アメリカ | 487 | ラトビア | 494 |
| ㉜ | アイルランド | 487 | ポルトガル | 493 |
| ㉝ | ポルトガル | 487 | リトアニア | 491 |
| ㉞ | スペイン | 483 | スロバキア | 490 |
| ㉟ | イタリア | 483 | イタリア | 489 |
| ㊱ | ラトビア | 482 | スペイン | 488 |
| ㊲ | リトアニア | 477 | クロアチア | 486 |
| ㊳ | ロシア | 468 | ルクセンブルグ | 484 |
| ㊴ | ギリシャ | 466 | ロシア | 478 |
| ㊵ | クロアチア | 460 | ギリシャ | 470 |
| ㊶ | ドバイ | 453 | ドバイ | 466 |
| ㊷ | イスラエル | 447 | イスラエル | 455 |
| ㊸ | トルコ | 445 | トルコ | 454 |

| | | | | |
|----|------------|-----|------------|-----|
| ④④ | セルビア | 442 | チリ | 447 |
| ④⑤ | アゼルバイジャン | 431 | セルビア | 443 |
| ④⑥ | ブルガリア | 428 | ブルガリア | 439 |
| ④⑦ | ルーマニア | 427 | ルーマニア | 428 |
| ④⑧ | ウルグアイ | 427 | ウルグアイ | 427 |
| ④⑨ | チリ | 421 | タイ | 425 |
| ⑤⑩ | タイ | 419 | メキシコ | 416 |
| ⑤⑪ | メキシコ | 419 | ヨルダン | 415 |
| ⑤⑫ | トリニダード・トバゴ | 414 | トリニダード・トバゴ | 410 |
| ⑤⑬ | カザフスタン | 405 | ブラジル | 405 |
| ⑤⑭ | モンテネグロ | 403 | コロンビア | 402 |
| ⑤⑮ | アルゼンチン | 388 | モンテネグロ | 401 |
| ⑤⑯ | ヨルダン | 387 | アルゼンチン | 401 |
| ⑤⑰ | ブラジル | 386 | チュニジア | 401 |
| ⑤⑱ | コロンビア | 381 | カザフスタン | 400 |
| ⑤⑲ | アルバニア | 377 | アルバニア | 391 |
| ⑥⑩ | チュニジア | 371 | インドネシア | 383 |
| ⑥⑪ | インドネシア | 371 | カタール | 379 |
| ⑥⑫ | カタール | 368 | パナマ | 376 |
| ⑥⑬ | ペルー | 365 | アゼルバイジャン | 373 |
| ⑥⑭ | パナマ | 360 | ペルー | 369 |
| ⑥⑮ | キルギス | 331 | キルギス | 330 |
| | OECD 平均 | 496 | OECD 平均 | 501 |

(注) 網掛けは非 OECD 加盟国・地域を示す。

3. 学習の背景 (本文第 5 章)

学校質問紙、生徒質問紙の結果及び調査問題との関連から、以下のことが明らかとなった。

- 日本は、生徒に起因する学級の雰囲気は OECD 加盟国中で最も良好である (本文第 5.1.2 節参照)。
- 「国語の授業」についての 5 つの質問項目 (「先生は、生徒が静まるまで長い時間待たなければならない」等) への日本の生徒の回答状況をみると、日本は OECD 平均よりも、国語の授業の雰囲気が良いことが分かる。2000 年と 2009 年とを比較してもすべての質問項目について、2000 年より良くなっており、日本の国語の授業の雰囲気は極めて良いことがわかる (本文第 5.1.3 節参照)。
- 「教師と生徒の関係」についての質問項目のうち、特に 2009 年では「助けが必要なときは、先生が助けてくれる」に肯定的な回答をした割合は日本が 64% で OECD 平均 78% と比べ 15 ポイント低く、全参加国の中でもギリシャ (63%) に次いで低い (本文第 5.1.4 節参照)。
- 部活動やボランティア活動等、様々な「学校の活動」の有無別に見た読解力得点では、11 項目において、活動を行っている学校に通う生徒の得点が高く、これら 11 項目のうち 10 項目において、日本は OECD 平均よりも活動の有無による得点差が大きい。日本では

学校の活動が行われているほど読解力の得点が高く、その傾向が OECD 加盟国の中では相対的に強いと言える（本文第 5.1.5 節参照）。

- 日本は、「本校が非常に高い学業水準を設定し、生徒にこれに見合った高い学力をつけさせていくことを期待する圧力を常に多くの保護者から受けている」と回答した校長の割合が参加国中で 11 番目に高い（本文第 5.1.7 節参照）。
- 各国での「家庭の社会経済的背景」指標の値の四分位数によって生徒を上位から下位まで 4 群に分け、各群での読解力の平均得点を比較した結果、家庭の社会経済的水準が高いほど生徒の読解力平均得点が高いことが分かった。ただし、その程度は国や地域によって異なり、OECD 平均に比べて、日本はフィンランドやカナダとともに影響が小さかった（本文第 5.2.3 節参照）。
- 各国での、「生徒の社会経済文化的背景」指標（「保護者の教育的背景」と「家庭の社会経済的背景」の指標に、「家庭の所有物」に関する指標を加えたもの）の値で下位 25% の生徒の集団と上位 25% の生徒の集団における、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの平均得点の差を比較すると、すべての国において群間の得点差が見られた。OECD 平均は 89～92 点であるが、日本における群間の得点差はやや小さく、70～75 点であった。また、フィンランドにおいては群間の得点差は小さく、54～61 点であった。一方で、ドイツにおいては群間の得点差は大きく、104～120 点であった。全体的には、社会経済文化的水準が高い生徒は平均的に高い得点であるという傾向が見られた（本文第 5.3.3 節参照）。
- 日本は、生徒の社会経済文化的背景の違いによる読解力得点の違いが低い水準にある。つまり、家庭の経済状況や教育環境の違いが読解力に影響する程度が小さく、相対的に平等性の高い教育システムであると言える。（本文第 5.3.3 節参照）。

【備 考】

本要約は、PISA2009 年調査の国際的な調査結果の公表（2010 年 12 月 7 日）に合わせ、OECD が作成中の英語版国際報告書案に掲載のデータに基づきながら、特に、わが国にとって示唆のある結果をまとめたものである。このうち「本文」とあるのは、国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能④—OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2009 年調査国際結果報告書一』（明石書店、2010 年 12 月）を指す。

また、2009 年調査の基本的な考え方やデザイン等については、国立教育政策研究所監訳『PISA2009 年調査 評価の枠組み』（明石書店、2010 年 10 月）を刊行している。

PISA調査における日本の結果の推移について

以下は、これまで2000年、2003年、2006年及び2009年と4回にわたり実施されたPISA調査における日本の主な結果をまとめたものである。

1. 読解力

| | レベル 1b未満 | レベル 1b | レベル 1a | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|---------|-------------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|------|
| 2009年調査 | 1.3% | 3.4% | 8.9% | 18.0% | 28.0% | 27.0% | 11.5% | 1.9% |
| OECD平均 | 1.1% | 4.6% | 13.1% | 24.0% | 28.9% | 20.7% | 6.8% | 0.8% |
| | レベル1未満 | | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | — |
| 2006年調査 | 6.7% | | 11.7% | 22.0% | 28.7% | 21.5% | 9.4% | — |
| OECD平均 | 7.4% | | 12.7% | 22.7% | 27.8% | 20.7% | 8.6% | — |
| 2003年調査 | 7.4% | | 11.6% | 20.9% | 27.2% | 23.2% | 9.7% | — |
| OECD平均 | 6.7% | | 12.4% | 22.8% | 28.7% | 21.3% | 8.3% | — |
| 2000年調査 | 2.7% | | 7.3% | 18.0% | 33.3% | 28.8% | 9.9% | — |
| OECD平均 | 6.0% | | 11.9% | 21.7% | 28.7% | 22.3% | 9.5% | — |

| | 2009年調査 | 2006年調査 | 2003年調査 | 2000年調査 |
|-------------------------------|---------|----------|----------|---------|
| 日本の得点 | 520点 | 498点 | 498点 | 522点 |
| OECD平均 | 493点 | 492点 | 494点 | 500点 |
| OECD加盟国中の順位 | 5位/34か国 | 12位/30か国 | 12位/30か国 | 8位/28か国 |
| OECD加盟国中の順位の範囲 ^(注) | 3～6位 | 9～16位 | 10～18位 | — |
| 全参加国中の順位 | 8位/65か国 | 15位/57か国 | 14位/41か国 | 8位/32か国 |
| 全参加国中の順位の範囲 ^(注) | 5～9位 | 11～21位 | 12～22位 | 3～10位 |

2. 数学的リテラシー

| | レベル 1未満 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 | レベル6 |
|---------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 2009年調査 | 4.0% | 8.5% | 17.4% | 25.7% | 23.5% | 14.7% | 6.2% |
| OECD平均 | 8.0% | 14.0% | 22.0% | 24.3% | 18.9% | 9.6% | 3.1% |
| 2006年調査 | 3.9% | 9.1% | 18.9% | 26.1% | 23.7% | 13.5% | 4.8% |
| OECD平均 | 7.7% | 13.6% | 21.9% | 24.3% | 19.1% | 10.0% | 3.3% |
| 2003年調査 | 4.7% | 8.6% | 16.3% | 22.4% | 23.6% | 16.1% | 8.2% |
| OECD平均 | 8.2% | 13.2% | 21.1% | 23.7% | 19.1% | 10.6% | 4.0% |

| | 2009年調査 | 2006年調査 | 2003年調査 | 2000年調査 |
|-------------------------------|---------|----------|---------|---------|
| 日本の得点 | 529点 | 523点 | 534点 | 557点 |
| OECD平均 | 496点 | 498点 | 500点 | 500点 |
| OECD加盟国中の順位 | 4位/34か国 | 6位/30か国 | 4位/30か国 | 1位/28か国 |
| OECD加盟国中の順位の範囲 ^(注) | 3～6位 | 4～9位 | 2～7位 | — |
| 全参加国中の順位 | 9位/65か国 | 10位/57か国 | 6位/41か国 | 1位/32か国 |
| 全参加国中の順位の範囲 ^(注) | 8～12位 | 6～13位 | 3～10位 | 1～3位 |

3. 科学的リテラシー

| | レベル 1 未満 | レベル 1 | レベル 2 | レベル 3 | レベル 4 | レベル 5 | レベル 6 |
|----------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 2009 年調査 | 3.2 % | 7.5 % | 16.3 % | 26.6 % | 29.5 % | 14.4 % | 2.6 % |
| OECD 平均 | 5.0 % | 13.0 % | 24.4 % | 28.6 % | 20.6 % | 7.4 % | 1.1 % |
| 2006 年調査 | 3.2 % | 8.9 % | 18.5 % | 27.5 % | 27.0 % | 12.4 % | 2.6 % |
| OECD 平均 | 5.2 % | 14.1 % | 24.0 % | 27.4 % | 20.3 % | 7.7 % | 1.3 % |

| | 2009 年調査 | 2006 年調査 | 2003 年調査 | 2000 年調査 |
|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 日本の得点 | 539 点 | 531 点 | 548 点 | 550 点 |
| OECD 平均 | 501 点 | 500 点 | 500 点 | 500 点 |
| OECD 加盟国中の順位 | 2 位/34 か国 | 3 位/30 か国 | 2 位/30 か国 | 2 位/28 か国 |
| OECD 加盟国中の順位の範囲 ^(注) | 2～3 位 | 2～5 位 | 1～3 位 | — |
| 全参加国中の順位 | 5 位/65 か国 | 6 位/57 か国 | 2 位/41 か国 | 2 位/32 か国 |
| 全参加国中の順位の範囲 ^(注) | 4～6 位 | 3～9 位 | 1～3 位 | 1～2 位 |

(注) 平均得点には誤差が含まれるため、統計的に考えられる上位及び下位の順位を OECD 加盟国／参加国の中で示したものの。

【参考資料①：PISA 2006 年調査における分野別平均得点の国際比較】

| | 読 解 力 | 得点 | 数学的リテラシー | 得点 | 科学的リテラシー | 得点 |
|---|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| ① | 韓国 | 556 | 台湾 | 549 | フィンランド | 563 |
| ② | フィンランド | 547 | フィンランド | 548 | 香港 | 542 |
| ③ | 香港 | 536 | 香港 | 547 | カナダ | 534 |
| ④ | カナダ | 527 | 韓国 | 547 | 台湾 | 532 |
| ⑤ | ニュージーランド | 521 | オランダ | 531 | エストニア | 531 |
| ⑥ | アイルランド | 517 | スイス | 530 | 日本 | 531 |
| ⑦ | オーストラリア | 513 | カナダ | 527 | ニュージーランド | 530 |
| ⑧ | リヒテンシュタイン | 510 | マカオ | 525 | オーストラリア | 527 |
| ⑨ | ポーランド | 508 | リヒテンシュタイン | 525 | オランダ | 525 |
| ⑩ | スウェーデン | 507 | 日本 | 523 | リヒテンシュタイン | 522 |
| ⑪ | オランダ | 507 | ニュージーランド | 522 | 韓国 | 522 |
| ⑫ | ベルギー | 501 | ベルギー | 520 | スロベニア | 519 |
| ⑬ | エストニア | 501 | オーストラリア | 520 | ドイツ | 516 |
| ⑭ | スイス | 499 | エストニア | 515 | イギリス | 515 |
| ⑮ | 日本 | 498 | デンマーク | 513 | チェコ | 513 |
| ⑯ | 台湾 | 496 | チェコ | 510 | スイス | 512 |
| ⑰ | イギリス | 495 | アイスランド | 506 | マカオ | 511 |
| ⑱ | ドイツ | 495 | オーストリア | 505 | オーストリア | 511 |
| ⑲ | デンマーク | 494 | スロベニア | 504 | ベルギー | 510 |
| ⑳ | スロベニア | 494 | ドイツ | 504 | アイルランド | 508 |
| ㉑ | マカオ | 492 | スウェーデン | 502 | ハンガリー | 504 |

| | | | | | | |
|----|-----------|-----|----------|-----|----------|-----|
| ②② | オーストリア | 490 | アイルランド | 501 | スウェーデン | 503 |
| ②③ | フランス | 488 | フランス | 496 | ポーランド | 498 |
| ②④ | アイスランド | 484 | イギリス | 495 | デンマーク | 496 |
| ②⑤ | ノルウェー | 484 | ポーランド | 495 | フランス | 495 |
| ②⑥ | チェコ | 483 | スロバキア | 492 | クロアチア | 493 |
| ②⑦ | ハンガリー | 482 | ハンガリー | 491 | アイスランド | 491 |
| ②⑧ | ラトビア | 479 | ルクセンブルグ | 490 | ラトビア | 490 |
| ②⑨ | ルクセンブルグ | 479 | ノルウェー | 490 | アメリカ | 489 |
| ③⑩ | クロアチア | 477 | リトアニア | 486 | スロバキア | 488 |
| ③⑪ | ポルトガル | 472 | ラトビア | 486 | スペイン | 488 |
| ③⑫ | リトアニア | 470 | スペイン | 480 | リトアニア | 488 |
| ③⑬ | イタリア | 469 | アゼルバイジャン | 476 | ノルウェー | 487 |
| ③⑭ | スロバキア | 466 | ロシア | 476 | ルクセンブルグ | 486 |
| ③⑮ | スペイン | 461 | アメリカ | 474 | ロシア | 479 |
| ③⑯ | ギリシャ | 460 | クロアチア | 467 | イタリア | 475 |
| ③⑰ | トルコ | 447 | ポルトガル | 466 | ポルトガル | 474 |
| ③⑱ | チリ | 442 | イタリア | 462 | ギリシャ | 473 |
| ③⑲ | ロシア | 440 | ギリシャ | 459 | イスラエル | 454 |
| ④① | イスラエル | 439 | イスラエル | 442 | チリ | 438 |
| ④② | タイ | 417 | セルビア | 435 | セルビア | 436 |
| ④③ | ウルグアイ | 413 | ウルグアイ | 427 | ブルガリア | 434 |
| ④④ | メキシコ | 410 | トルコ | 424 | ウルグアイ | 428 |
| ④⑤ | ブルガリア | 402 | タイ | 417 | トルコ | 424 |
| ④⑥ | セルビア | 401 | ルーマニア | 415 | ヨルダン | 422 |
| ④⑦ | ヨルダン | 401 | ブルガリア | 413 | タイ | 421 |
| ④⑧ | ルーマニア | 396 | チリ | 411 | ルーマニア | 418 |
| ④⑨ | インドネシア | 393 | メキシコ | 406 | モンテネグロ | 412 |
| ④⑩ | ブラジル | 393 | モンテネグロ | 399 | メキシコ | 410 |
| ⑤① | モンテネグロ | 392 | インドネシア | 391 | インドネシア | 393 |
| ⑤② | コロンビア | 385 | ヨルダン | 384 | アルゼンチン | 391 |
| ⑤③ | チュニジア | 380 | アルゼンチン | 381 | ブラジル | 390 |
| ⑤④ | アルゼンチン | 374 | コロンビア | 370 | コロンビア | 388 |
| ⑤⑤ | アゼルバイジャン | 353 | ブラジル | 370 | チュニジア | 386 |
| ⑤⑥ | カタール | 312 | チュニジア | 365 | アゼルバイジャン | 382 |
| ⑤⑦ | キルギス | 285 | カタール | 318 | カタール | 349 |
| ⑤⑧ | アメリカ (注1) | m | キルギス | 311 | キルギス | 322 |
| | OECD 平均 | 492 | OECD 平均 | 498 | OECD 平均 | 500 |

(注1) アメリカについては、調査実施後、評価問題の冊子の組み方に不備が明らかとなったため、読解力の結果の分析から除かれている。

(注2) 網掛は、結果公表時の非 OECD 加盟国・地域を示す。

【参考資料②：PISA 2003年調査における分野別平均得点の国際比較】

| | 読 解 力 | 得点 | 数学的リテラシー | 得点 | 科学的リテラシー | 得点 | 問題解決能力 | 得点 |
|---|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
| ① | フィンランド | 543 | 香港 | 550 | フィンランド | 548 | 韓国 | 550 |
| ② | 韓国 | 534 | フィンランド | 544 | 日本 | 548 | 香港 | 548 |
| ③ | カナダ | 528 | 韓国 | 542 | 香港 | 539 | フィンランド | 548 |
| ④ | オーストラリア | 525 | オランダ | 538 | 韓国 | 538 | 日本 | 547 |
| ⑤ | リヒテンシュタイン | 525 | リヒテンシュタイン | 536 | リヒテンシュタイン | 525 | ニュージーランド | 533 |
| ⑥ | ニュージーランド | 522 | 日本 | 534 | オーストラリア | 525 | マカオ | 532 |
| ⑦ | アイルランド | 515 | カナダ | 532 | マカオ | 525 | オーストラリア | 530 |
| ⑧ | スウェーデン | 514 | ベルギー | 529 | オランダ | 524 | リヒテンシュタイン | 529 |
| ⑨ | オランダ | 513 | マカオ | 527 | チェコ | 523 | カナダ | 529 |
| ⑩ | 香港 | 510 | スイス | 527 | ニュージーランド | 521 | ベルギー | 525 |
| ⑪ | ベルギー | 507 | オーストラリア | 524 | カナダ | 519 | スイス | 521 |
| ⑫ | ノルウェー | 500 | ニュージーランド | 523 | スイス | 513 | オランダ | 520 |
| ⑬ | スイス | 499 | チェコ | 516 | フランス | 511 | フランス | 519 |
| ⑭ | 日本 | 498 | アイスランド | 515 | ベルギー | 509 | デンマーク | 517 |
| ⑮ | マカオ | 498 | デンマーク | 514 | スウェーデン | 506 | チェコ | 516 |
| ⑯ | ポーランド | 497 | フランス | 511 | アイルランド | 505 | ドイツ | 513 |
| ⑰ | フランス | 496 | スウェーデン | 509 | ハンガリー | 503 | スウェーデン | 509 |
| ⑱ | アメリカ | 495 | オーストリア | 506 | ドイツ | 502 | オーストリア | 506 |
| ⑲ | デンマーク | 492 | ドイツ | 503 | ポーランド | 498 | アイスランド | 505 |
| ⑳ | アイスランド | 492 | アイルランド | 503 | スロバキア | 495 | ハンガリー | 501 |
| ㉑ | ドイツ | 491 | スロバキア | 498 | アイスランド | 495 | アイルランド | 498 |
| ㉒ | オーストリア | 491 | ノルウェー | 495 | アメリカ | 491 | ルクセンブルグ | 494 |
| ㉓ | ラトビア | 491 | ルクセンブルグ | 493 | オーストリア | 491 | スロバキア | 492 |
| ㉔ | チェコ | 489 | ポーランド | 490 | ロシア | 489 | ノルウェー | 490 |
| ㉕ | ハンガリー | 482 | ハンガリー | 490 | ラトビア | 489 | ポーランド | 487 |
| ㉖ | スペイン | 481 | スペイン | 485 | スペイン | 487 | ラトビア | 483 |
| ㉗ | ルクセンブルグ | 479 | ラトビア | 483 | イタリア | 486 | スペイン | 482 |
| ㉘ | ポルトガル | 478 | アメリカ | 483 | ノルウェー | 484 | ロシア | 479 |
| ㉙ | イタリア | 476 | ロシア | 468 | ルクセンブルグ | 483 | アメリカ | 477 |
| ㉚ | ギリシャ | 472 | ポルトガル | 466 | ギリシャ | 481 | ポルトガル | 470 |
| ㉛ | スロバキア | 469 | イタリア | 466 | デンマーク | 475 | イタリア | 469 |
| ㉜ | ロシア | 442 | ギリシャ | 445 | ポルトガル | 468 | ギリシャ | 449 |
| ㉝ | トルコ | 441 | セルビア・モンテネグロ | 437 | ウルグアイ | 438 | タイ | 425 |
| ㉞ | ウルグアイ | 434 | トルコ | 423 | セルビア・モンテネグロ | 436 | セルビア・モンテネグロ | 420 |
| ㉟ | タイ | 420 | ウルグアイ | 422 | トルコ | 434 | ウルグアイ | 411 |
| ㊱ | セルビア・モンテネグロ | 412 | タイ | 417 | タイ | 429 | トルコ | 408 |
| ㊲ | ブラジル | 403 | メキシコ | 385 | メキシコ | 405 | メキシコ | 384 |
| ㊳ | メキシコ | 400 | インドネシア | 360 | インドネシア | 395 | ブラジル | 371 |
| ㊴ | インドネシア | 382 | チュニジア | 359 | ブラジル | 390 | インドネシア | 361 |
| ㊵ | チュニジア | 375 | ブラジル | 356 | チュニジア | 385 | チュニジア | 345 |
| | OECD 平均 | 494 | OECD 平均 | 500 | OECD 平均 | 500 | OECD 平均 | 500 |

(注) 2003年調査において国際的な実施基準を満たさなかったイギリスは除く。網掛は結果公表時の非 OECD 加盟国・地域を示す。

【参考資料③：PISA 2000年調査における分野別平均得点の国際比較】

| | 総合読解力 | 得点 | 数学的リテラシー | 得点 | 科学的リテラシー | 得点 |
|---|-----------|-----|-----------|-----|-----------|-----|
| ① | フィンランド | 546 | 日本 | 557 | 韓国 | 552 |
| ② | カナダ | 534 | 韓国 | 547 | 日本 | 550 |
| ③ | ニュージーランド | 529 | ニュージーランド | 537 | フィンランド | 538 |
| ④ | オーストラリア | 528 | フィンランド | 536 | イギリス | 532 |
| ⑤ | アイルランド | 527 | オーストラリア | 533 | カナダ | 529 |
| ⑥ | 韓国 | 525 | カナダ | 533 | ニュージーランド | 528 |
| ⑦ | イギリス | 523 | スイス | 529 | オーストラリア | 528 |
| ⑧ | 日本 | 522 | イギリス | 529 | オーストリア | 519 |
| ⑨ | スウェーデン | 516 | ベルギー | 520 | アイルランド | 513 |
| ⑩ | オーストリア | 507 | フランス | 517 | スウェーデン | 512 |
| ⑪ | ベルギー | 507 | オーストリア | 515 | チェコ | 511 |
| ⑫ | アイスランド | 507 | デンマーク | 514 | フランス | 500 |
| ⑬ | ノルウェー | 505 | アイスランド | 514 | ノルウェー | 500 |
| ⑭ | フランス | 505 | リヒテンシュタイン | 514 | アメリカ | 499 |
| ⑮ | アメリカ | 504 | スウェーデン | 510 | ハンガリー | 496 |
| ⑯ | デンマーク | 497 | アイルランド | 503 | アイスランド | 496 |
| ⑰ | スイス | 494 | ノルウェー | 499 | ベルギー | 496 |
| ⑱ | スペイン | 493 | チェコ | 498 | スイス | 496 |
| ⑲ | チェコ | 492 | アメリカ | 493 | スペイン | 491 |
| ⑳ | イタリア | 487 | ドイツ | 490 | ドイツ | 487 |
| ㉑ | ドイツ | 484 | ハンガリー | 488 | ポーランド | 483 |
| ㉒ | リヒテンシュタイン | 483 | ロシア | 478 | デンマーク | 481 |
| ㉓ | ハンガリー | 480 | スペイン | 476 | イタリア | 478 |
| ㉔ | ポーランド | 479 | ポーランド | 470 | リヒテンシュタイン | 476 |
| ㉕ | ギリシャ | 474 | ラトビア | 463 | ギリシャ | 461 |
| ㉖ | ポルトガル | 470 | イタリア | 457 | ロシア | 460 |
| ㉗ | ロシア | 462 | ポルトガル | 454 | ラトビア | 460 |
| ㉘ | ラトビア | 458 | ギリシャ | 447 | ポルトガル | 459 |
| ㉙ | ルクセンブルグ | 441 | ルクセンブルグ | 446 | ルクセンブルグ | 443 |
| ㉚ | メキシコ | 422 | メキシコ | 387 | メキシコ | 422 |
| ㉛ | ブラジル | 396 | ブラジル | 334 | ブラジル | 375 |
| | OECD 平均 | 500 | OECD 平均 | 500 | OECD 平均 | 500 |

(注) 2000年調査において国際的な実施基準を満たさなかったオランダは除く。網掛は結果公表時の非 OECD 加盟国を示す。